

# いきいき健康術 第98回

## 『閉塞性動脈硬化症』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院の内科医師角谷慶人先生。生活習慣病の影響で増加傾向にある閉塞性動脈硬化症に関するお話です。

「最近、しばらく歩くと足がだるくて歩けなくなる。でも、しばらく休むとまた歩けるようになる」

こんな症状の方はいらっしゃいませんか。これは「間欠性跛行」と呼ばれる症状で、足の血管が狭くなったり詰まったりして起こる『閉塞性動脈硬化症』の特徴的な症状です<sup>(注)</sup>。

この病気はその名のとおり、血管の動脈硬化によって生じますが、近年、社会の高齢化と生活習慣病の増加に伴って増加しています。初期には足の冷感やしびれ感のみですが、進行すると前述の「間欠性跛行」が出現します。さらに放置すると安静時にも足が痛くなり、さらには、小さな足の傷が治らず重症化してしまう事態にもなりかねません。

幸い、この病気は比較的簡単に検査・診断することができます。足の血管の触診に加えて、「ABI検査」と呼ばれる、両手足の血圧を測定する検査を行うことが第一歩となります。治療については、運動療法や薬物療法に加えて、体への負担が少ないカテーテルによる血管内治療が広く行われています。

もし、「間欠性跛行」の症状があるようなら、一度はABI検査を受けることをお勧めします。

また、閉塞性動脈硬化症について気になる方は当院までご相談ください。



内科医師  
角谷 慶人 先生(京丹波町病院)

(注)神経が圧迫されて起こる『脊柱管狭窄症』でも同様の症状が生じるため、ABI検査によって鑑別することが大切です。

### お知らせ

京丹波町病院では、毎週水・木曜日の午後一時から三時まで小児科の予防接種を行っています。

☎ 86-0220